THE PRESS ザプレス 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：https://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

2024年の目標

1年生 今を生きる
2年生 一日一日大切にする
3年生 大学生活 充実したものに

笑顔あふれる年に

国際生＆先生 恒例 新年アンケート

3年生 昨年の漢字は「努」

2024年がスタートした。早々から地震などで大変な幕開けになってしまったが、新年の初め、皆さんは今年の目標などを考えていることだろう。そこで、新聞部は毎年恒例、国際生と先生に今年の目標や、2023年を振り返ってどのような年だったのかを聞いてみた。皆さんにとって、2024年が良い年になりますように。

Q1．あなたの去年1年間を、漢字1文字で表すと？

1年生は「新」が圧倒的多数。次点「楽」、続いて「友」「笑」「変」という回答が多かった。高校生活が始まったことが大きく影響しているとみられる。2年生も「楽」が大多数で、「忙」「疲」が続く。充実した高校生活を送れている人の意見が多く寄せられた。3年生で多かったのは、やはり「努」「続」「忙」。多くの人が、受験のために勉強を続ける努力をしている人がいるようだ。

【その他】
「計」計画立てて物事に取り組んだ（1年）
「難」勉強が難しくなったから（1年）
「苦」受験のためにいろいろなことを我慢したり、勉強をするのが大変で苦しかったから（3年）
「協」たくさんの人と協力しあい、頑張ってきたから（3年）
「脳」脳を使う機会が多かったから（3年）
「輝」自分が輝いていたから（2年）
「夢」ディズニーランドに行ったから（3年）
「仲」信頼できる友達を作ることができたから（1年）

【先生編】
「結」コロナが5類に移行して、次女が結婚式を挙げた。いつものように盆と正月に身内や親戚が顔を合わせ、お互いの結びつきを再認識できた（本波先生）
「疲」子育てに受験指導に疲れたから（山田先生）
「忙」新しい仕事が多かったから（中山哲先生）
「習」去年、沢山新たなことを習ったから（ベリー先生）
「話」人工知能と対話する時間が多く、生身の人間と話す時間が少なかった。（橋本先生）
「笑」色々な人と沢山笑った1年でした。（高道先生）
「新」新しい校舎の本校に新たに赴任して新たな気持ちを持ち続けたから（大塚先生）
1年生担任として新しい気持ちで臨んだから（島先生）
「変」去年4月に国際高校に赴任し、大きく変化したから（上田先生）
「瞬」あっという間に1年が過ぎた感じがしたため（本田先生）
「耐」いろいろなことに耐えているから（橋川先生）

Q2．去年、一番頑張ったことを教えてください

1、2年生の多くが「勉強」、「部活」、3年生は「受験」、「勉強」が多かった。どの学年も勉強と部活に努めていたことがわかり、3年生はそれに加え、受験に懸命に挑んできたことがわかる結果だった。

【その他】
好奇心に従う（1年）
友達作り（1年）
人間関係（1年）
恋（2年）
日常生活（2年）
趣味（2年）
自己改善（3年）
筋トレ（2年）
英語のスピーチコンテスト（1年）
違う国の人とのコミュニケーション（1年）

【先生編】
毎日の片道40㎞、往復80㎞の通勤（本波先生）
日本語を勉強すること（ベリー先生）
人工知能（橋本先生）
部屋掃除（高道先生）
5階の教室まで、なるべくエレベーターを使わなかったこと（大塚先生）
整理整頓（島先生）
子育て（有澤先生）
授業で使うプリント作り（上田先生）
クラスの生徒の進路指導（西村先生）
読書（作農先生）
Eat healthy（ワン先生）
全てにおいて全力投球！（橋川先生）
弓道（大澤先生）
祈願（片山先生）
ICT機器の使用に慣れるのに努力した（清水卓先生）
学年全体の進路意識を高めること（庄司先生）

Q3．今年の目標を教えてください

全学年を通して「笑顔があふれる年にしたい」という意見が寄せられるとともに、「何事にも挑戦したい」という意欲的な回答が多かった。また、3年生では大学への意気込みを示す回答が多く寄せられた。どの学年も、多くの人が今年に期待していることがわかる。

【その他】
進学したい大学を見つける（1年）
今を生きる（1年）
英検に合格する（1年）
1日1日を大切にする（2年）
遅刻しない（2年）
メリハリをつける（2年）
大学生活を充実したものにする（3年）
一人暮らしを頑張る（3年）
旅行に行きたい（3年）
大学で単位を落とさない（3年）

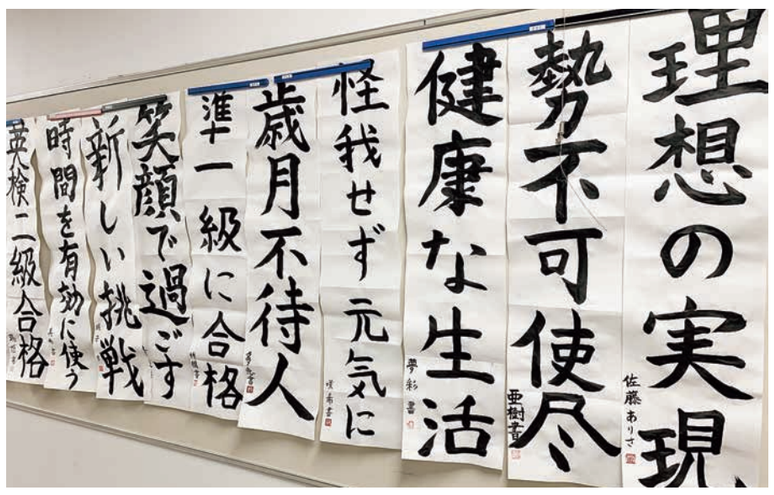
【先生編】
140kgベンチプレス（ベリー先生）
昔学んだ哲学思想学び直し（橋本先生）
Year（高道先生）
行動する（大塚先生）
グーグルを今より少しでも使えるようになって生徒諸君のため授業の精度を上げる（大塚先生）
健康でいる（島先生）
分かりやすい授業をする（上田先生）
定期的にしっかりと運動をして、腹を引っ込めて体重を適切に保つ（西村先生）
子育ては引き続き、それ以外に自分のスキルを何かしら伸ばしたい（山田先生）
朝寝（朝起）→健康（作農先生）
be a good father（ワン先生）
健康に過ごす（橋川先生）
今の弓道部員で先輩たちの記録を更新させたい（大澤先生）
生徒たちの希望進路の実現（庄司先生）
先見性を持つ（本田先生）

Q4．今年はどんな年にしたいですか？

「楽しい年」、「後悔のない年」など、前向きな声が多く寄せられた。1年生は、高校生活2年目に突入する意気込み、2年生は受験への覚悟と不安、そして3年生はこれから始まる新しい生活について、様々な思いを感じることができた。

【その他】
成果を出せる1年（1年）
笑顔の絶えない1年（1年）
短いと思えるような年（1年）
後悔のない年（1年）
平和な日常が送れる年（1年）
実りある1年（2年）
大学合格（2年）
諦めず、努力し続ける1年（2年）
健康安全（2年）
人の役に立てる年（3年）
趣味に本気を出す（3年）
素敵な年（3年）

【先生編】
今年1年間を漢字1文字で表すと、と聞かれて「活」って答えられるような1年にしたいです（本波先生）
たくさんの忍耐がある年（ベリー先生）
健康でいること、心配をかけないこと（橋本先生）
友達などに会いにいく、行動する1年にしたいです（高道先生）
地震災害に立ち向かっている人と共に、1日1日を大切にしたい（大塚先生）
落ち着いた年（有澤先生）
ストレスマネージメントをしっかりとする（西村先生）
家族仲良く健康に（山田先生）
明るい年にしたいです（中山哲先生）
能登半島地震を経験し、生きることは偶然の賜物だと感じました。ゆえに1日1日を大切に成長し続けたいです。（大澤先生）
続けることができますように（片山先生）
今年も1年間元気に勤務したいと思います。（清水卓先生）
多くの夢を実現させること（庄司先生）
メリハリのある生活にしたい（本田先生）
今年は1月1日に地震が起こったので、穏やかな年になればいいですね。（上田先生）



1年生書道選択者の書き初め（今年の抱負）

英語ディベート全国6位

第18回全国高校生英語ディベート大会in栃木（全国高校英語ディベート連盟主催）が12月16・17日、栃木県宇都宮市の作新学院大学で開かれ、出場した本校チームは4勝1敗1分の成績で全国6位に輝いた。

全国英語ディベート大会で6位を獲得した本校チーム

メンバーは、松本梨佐（31H）、竹林くるみ（31H）、市村翼（31H）、小川桃音（32H）、シェピン・グレブ（32H）、河合美春（21H）の6人。

過去3年間は感染症防止のためオンライン開催だったが、今大会は都道府県の代表64校が栃木に集い、4年ぶりに対面で競技が行われた。「日本政府は、代理出産を合法化すべきである。是か非か」をテーマに、肯定派と否定派に分かれて1試合約40分間の議論を戦わせ、意見を主張した。

小川さんは「ジャッジを納得させるために、論理的で一貫性のあるスピーチをすることに一番注力した。また、ディベートはお互いを攻撃し合う競技だが、対戦相手を尊重する態度を忘れずに質疑応答などを行った」と本番を振り返る。

「予選最後の試合に負けてしまい準決勝に進めなかったのは残念だったが、自分のベストを尽くすことができた。たくさんのレベルの高い高校と試合をすることができて、有意義な時間を過ごせた。大学進学後も、機会があればディベートをしたい」と話した。

また、昨年も出場している河合さんは「県代表としての責任を感じながら臨んだ本番はとても緊張したが、チームメンバーと円滑なコミュニケーションをとることに気をつけた。去年の全国大会での結果を上回ることをまず自分の中で目標にしていたので、ベスト8に入るとは考えておらずとてもうれしい」と笑顔で話した。

生成AIで考え深める

生成AIを使って思考を深める情報Iの授業が1月15日、1年生の国際英語、特進コースを対象に行われ、生徒達は「幸福とは何か」をテーマに考えを深めた。

生成AIを使った授業を受ける1年生

この授業は、本質観取とパターン・ランゲージを使って考え、最後に生成AIのGoogle Bardと議論するという方法で進められた。本校卒業生で慶應義塾大学環境情報学部1年の平下ひなたさんが特別講師を務めた。

授業は、自分の経験から物事の本質を考え、万人に当てはまる定義を作る本質観取からスタート。哲学者フッサールが考案した思考法を学びながら、これまでの人生で幸福だと感じた瞬間をリストアップして定義を作成した。続いて、問題を解決する言語活動には一定の規則があるとするパターン・ランゲージを使い、「当たり前への感謝」や「ギブする幸せ」などのテーマにそって、グループで自分の経験を紹介し合った。次に、生成AIを使って自分たちの定義に反論させ、それに生徒がさらに反論することで、幸せの定義をより完全なものへと近づけていった。

授業の最後には、完成した幸福の定義を使い、別の生成AIで作詞作曲も試みた。

部説 能登半島地震 ～今だからこそ 自分にできることを～

穏やかに新しい年を迎えたと思われた元日の16時10分、石川県能登地方でマグニチュード7・6、最大震度7を観測する大地震が発生した。国際高のある富山市も震度5強という経験したことのない揺れに襲われた。富山は災害が少ない県だと、よく言われていた。ここまで大きな地震が起こるなどと、ほとんどの人が考えていなかったはずだ。こうやって富山県にいながら、地震の恐ろしさを身をもって知らされるとは思ってもみなかっただろう。

しかしこの機会に、是非そうした考えを見直さなければならない。地震に対する当事者意識を持ち、被災者への支援と、自分や大切な家族の身を守る方法について考えてみよう。

今回の地震と津波は、想像を絶する甚大な被害をもたらした。国際生の中には、既に自分にできることはないか模索している人もいるだろう。私たちには、今だからこそできることもある。その一例として、募金活動が挙げられる。現在、国際高では被災者支援のため、生徒会執行部と会計委員が連携した募金活動が行われている。また、現状すぐに実行することは難しいかもしれないが、被災者受け入れや現地ボランティアとして活動することも考えられており、飛鳥生徒会長は「どこかの団体に登録し、要請が来たら動ける体制を作っていきたい」と話す。

地震後、間もなく発令された津波警報に驚き、家族とともに避難した国際生もいただろう。本校にも、体育館などに一時は100人近くの近隣の方が避難していた。駐車場には車があふれ、初め短大体育館が施錠されていて入れなかったため、高校の方に入って来られたようだ。その後、上げた際、富山短期大学は他の避難所が避難者を収容しきれない際に開放される第3次避難所（高校・大学など）に指定されている、と紹介した。その認識の有無に関わらず、実際に津波警報に接した近隣の方はまず、国際高を含めて5階建て以上の高い建物があるこのキャンパスを目指して避難して来たのではないか。だが、短大体育館は施錠されており、初めは高校体育館に避難するという形になった。また、学園本部（F館）に備蓄されているという飲料水や非常食料、毛布などは今回使われることはなかったようだが、それは数量的に足りるのか。いつ起こるか分からない災害時、避難所としての機能は十分に果たせるのか、様々な課題を突き付けられることになった。

国際高の校舎（本館・東館）は「震度6強の地震で倒壊、崩壊せず、震度5強程度では損傷もしない堅固な耐震性能」とされている。今回の地震で損傷は見られず、その性能を証明した形だが、高校敷地内には古い建物もあり、そこにいた場合に大きな地震が起こったらどうすべきかなども、しっかり考えておかなければならない。

そして、学校では生徒の避難訓練を行っているが、こうした大規模な災害の際にどう行動するべきかについて、さらに細かく想定して普段から対応を考えるべきではないだろうか。とにかく人命が守れるように、そうした普段からの心掛けが大切だ。改めて、私たちにできることを考える機会とすべきだ。

続・海外特派員通信

感動と感激の日々です

元井叶夢（かれん）さん（22H）Fromカナダ

毎回好評の、海外留学中の国際英語コース生による「海外特派員通信」。今回は、昨年9月からカナダ・ニューブランズウィック州のHarrison Trimble High Schoolに留学している元井叶夢さん（22H）に伝えてもらう。

こんにちは。現在カナダのニューブランズウィック州モンクトンに留学中の元井叶夢です。モンクトンは州の中では最も栄えている都市ですが、ダウンタウンから離れているところを一人で歩いても良いほど治安は良く、安全な地域です。ホストファミリーによると夏場は35℃まで気温が上がったようですが、それは1週間ほどだけで、冬場は最高気温でもマイナス3℃程度で常に氷点下、水溜りもずっと凍ったままで寒いです。

私は1400人を超える生徒が通い、州の中でも上位を争うほどの大きな学校であるハリソントリンブル高校に通っています。1コマの授業時間は基本的に1時間3分で、1日の授業数は5つです。日本の学校とは違い、同じ学年でも生徒によってそれぞれ受ける教科は異なっており、選択することができます。また、実際に受けてみて合わないと感じたら変更することもできます。毎日同じ科目を同じ順番で受けるので、授業の内容などは忘れにくく助かっています。授業によって異なる教室で受けるので、毎時間の移動が必要です。1400人を超える生徒が一斉に移動するので廊下はとても混み合い大変です。学校の生徒はとても多国籍で、アジア・アフリカ・ヨーロッパなど世界中から来た生徒がたくさんおり、ほとんどの生徒が2か国語以上を話すことができます。

私は、1学期は物理・英語・数学・ハウジングアンドデザイン・法律を学んでいます。先生も友達もとても優しく、英語が拙い私のことを気にかけ、ドキュメンタリーは英語字幕付きで見せてくれたり、困っているとすぐに「大丈夫？」と声をかけてくれたりするので、特に困ることなく授業を受けることができています。物理・数学・法律の授業は先生が質問をするだけでなく対話形式のことも多く、生徒は先生の話す勢いにも負けず劣らずの積極的な姿勢で、初めて授業を受けた時は衝撃を受け感動しました。

学校では様々なイベントが開催され、これまでにウィンターコンサート、トロジャン・トレック、ホームカミングダンス、ホームカミングフットボール、ウィンターフォーマルなどのたくさんのイベントが開催されてきました。その中でもトロジャン・トレックは一番私の印象に残っており、そのイベント中にボランティアも同時進行で行われ、近くの病院に寄付するための募金活動で学校内で194万円ものお金をわずか1週間ほどで集めることができ、ボランティアに対する意識の高さにとても感激しました。

私は、ヴォーカルアンサンブル、トロジャンインアクションの二つのクラブに入部しており、春からバドミントン部にも入部する予定です。ヴォーカルアンサンブルはその名の通り歌う部活で、英語の発音の向上に役立っています。また、トロジャンインアクションはいわゆるボランティア部で、定期的にハンドメイドのお菓子をロビーで販売し、得られたお金を募金しています。また、高齢者の家に1対1で訪問に行くという、異世代間交流のイベントも予定されています。

ハロウィンには友達と近所を歩き回り、「トリックオアトリート」と言って、お菓子をたくさんもらいました。私は実際にその文化を知らなかったのでとても驚きました。クリスマスが近付いてくると、1か月ほど前から家の中をデコレーションして、クリスマスイブには映画でよく目にする、ツリーの下にプレゼントが山盛りになっているという光景を体験できました。カナダではクリスマスに祖父母たちも集まり家族みんなで祝っており、日本との違いに驚きました。

カナダに来てから4か月ほど過ぎて、留学もそろそろ折り返し地点に到達しました。だんだんとこちらの生活にも適応できてきたと感じられています。現地で出会えた友達や家族との別れを想像するとすでに恋しく寂しいですが、残りの留学生活をより良いものにできるように、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

ドレスアップしてダンスを踊るフィルターフォーマルで留学生達と（元井さんは右から2人目）＝1月11日、モンクトン・コロシアム

かざぐるま

「破天荒」。この言葉を聞いて、どのような意味を連想するだろうか。今日、破天荒は豪快で大胆不敵であると解釈され、「彼の性格は破天荒だ」のように用いられることが多い。しかし、このような使い方は間違っている。本来の意味は、前人のなし得なかったことを初めてすることを指すのだ★先日、あるお店で店員さんから「カードはご利用できません」と言われたこともあった。実はこの表現も間違っており、「カードはご利用になれません」が正しい。また、本来は「休ませてもらう」と表現すべきところを「休ませてもらう」というように余計な「さ」を挿入してしまう「さ入れ言葉」などもそうだ。このような例に限らず、私たちの間には間違った使い方の日本語が広がっている★もちろん、言葉遣いは時代とともに変化する。特に近年は、SNSの発達によって独自の言葉が誕生するケースが増えているようだ。しかし、私たちのような若い世代にとっても、入試の面接の場面などで「正しい日本語」を使えないと苦労するはずだ。では、どうすれば言葉の正しい使い方を身につけることができるのか★そのためには、日ごろから正しい言葉遣いに触れる必要がある。その役割を果たす私たちの一番身近にあるものと言えば、そう、新聞だ。今、世の中で何が起きているのかを知りながら、正しい言葉遣いをチェックすることもできるという、とんでもない優れもの。国際高の3階フロアや職員室前に設置されている「新聞大学コーナー」を使わない手はない。国際生が新聞により触れやすくなったコーナーに、是非一度、立ち寄ってみては。

このたびの能登半島地震により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。　新聞部

特集

２年生 研修旅行

各コースで非日常を体験

２年生は12月18日から、海外１、国内３コースに分かれて研修旅行に出かけた。今回のコースと参加人数は、シンガポール107人、関東38人、四国28人、沖縄16人。
今回、４年ぶりに海外コースが復活。研修に向け、コースごとに事前学習に取り組んでから出発した。各コースとも、実りある研修になったようだ。各コースに参加した新聞部員（＋α）による紀行文と写真を掲載する。

関東コース

貴重な経験　探究に生かす

仁王様の力を表した大わらじの前で＝浅草寺宝蔵門

12／18
富山駅→TOKYO GLOBAL GATEWAY（体験型英語学習施設）、東京湾ディナークルーズ

12／19
東京スカイツリー、浅草、お台場、ライオンキング鑑賞（劇団四季）

12／20
江の島、鎌倉大仏、鶴岡八幡宮、横浜みなとみらい、横浜中華街

12／21
東京ディズニーリゾート

12／22
都内班別行動→富山駅

初日は、東京の有名な月島もんじゃで昼食をとった後、TOKYO GLOBAL GATEWAYで英語を用いての日常会話や職業体験に参加した。施設や機器が本格的に備わり、中でもニュース番組の作成においては一人一人がリポーターや気象予報士、ディレクターなどの役割に分かれ、実際に撮影しながら英語で報道する体験を行った。苦戦しながらも、ネイティブのスタッフとの会話に良い刺激を受ける良い機会となった。また、夜の東京湾ディナークルーズでのバイキングの後には、レインボーブリッジの下を通過するという貴重な体験をし、東京の夜景を満喫した。

2日目は、東京スカイツリー、浅草、お台場での自由見学の中で、壮大で歴史的な景観に触れながら、事前に調べたグルメスポットに立ち寄る生徒の姿が見られた。夜の「ライオンキング」鑑賞は、本物の動物のような仕草やキャラクターごとの違いが事細かく表現され、ストーリーだけでなく歌声や全体の迫力によって感動に浸る時間を過ごした。

3日目は神奈川県に移動し、昼は江ノ島、鎌倉大仏、鶴岡八幡宮、みなとみらいを観光した。自然豊かで綺麗な景観の街と海に囲まれる江ノ島で、神社を巡ってお参りしたり、人目を惹きつける独特な食べ物を楽しんだりしながら、非日常的な雰囲気の中を散策した。また、現地の人におすすめのスポットを質問したり、富山県についての質問を返したりなど、交流を深めることができた。夜は横浜中華街で中国語を学んだり、餃子と肉まん作りを体験したりなど、苦戦しつつも生徒どうしの交流や盛り上がりを見せた。

4日目は東京ディズニーランドを訪れ、クリスマス仕様に装飾された園内の雰囲気やパレードで一日、満喫した。また、探究活動の一環でキャストに質問をする生徒もいた。

最終日は都内近郊で班別行動をし、富山県と比べて賑やかな東京の街中で、有名な飲食店での昼食やデパートでのショッピングを楽しんだ。

この研修旅行では、関東を代表する有名な観光地や、普段体験することのできない貴重な経験であふれ、とても充実した5日間となった。この経験を思い出だけで終わらせることなく、自分たちの学びとしてこれからの探究活動にも活かしていきたい。

【三口はるひ】

体験型英語学習に取り組む生徒達＝TOKYO GLOBAL GATEWAY

シンガポールコース

羽伸ばし異文化を満喫

仏教寺院・仏牙寺龍華院の前で＝チャイナタウン

12／18
学校→羽田空港→チャンギ国際空港

12／19
現地大学生との交流プログラム

12／20
セントーサ島、ナイトサファリ

12／21
市内観光（マーライオンパーク、チャイナタウン、アラブストリート、リトルインディアなど）

12／22
チャンギ国際空港→羽田空港→学校

初日は1時にバスで学校を出発し、約7時間半かけて羽田空港に向かった。二つのグループに分かれてそれぞれの飛行機に乗り込み、7時間のフライトを終えてチャンギ国際空港に到着した。

2日目は、空港からチャイナタウンに向かい、朝食の時間も含めた自由時間を過ごした。店の種類の多さや馴染みのない料理を見て多くの生徒が驚いていたようだった。10時からB&Sプログラムで、15班に分かれて現地の大学生と街を回った。私の班はシンガポールの文化などを目で見て感じたいということで、現地の大学生のおすすめの場所を教えてもらった。まずはチャイナタウンを回り直し、おすすめのお土産や現地の教育、文化について教えてもらった。地下鉄やバスにも乗り、近くにあったホーカーセンターやマーライオン公園を訪れ、非日常感を楽しんだ。

3日目は、バスでセントーサ島へ行き、班別研修の時間となった。ほとんどの生徒がユニバーサルスタジオシンガポール（USS）を訪れた。日本とは違ったアトラクションも多く、とても楽しそうにしている生徒の姿が多く見られた。夕食は、ナイトサファリでバイキング形式のビュッフェを楽しみ、ナイトサファリ見学ではトラムに乗って日本語のガイドを聞きながら夜の動物の姿を観察した。

4日目はシンガポールに滞在する最終日ということで、キャリーケースを持ってバスに乗り込み、最後のシンガポール市内観光に向かった。午前中はマーライオンパークを訪れた。テレビや雑誌でよく見る景色を前に、生徒達は気持ちが高まっているようだった。続いてリトルインディアを訪れ、日本では見られないカラフルな街並みを楽しんだ。昼食は、レストランGeylang Claypotで現地の料理を楽しんだ。その後は、アラブストリートとガーデンズバイザベイを訪れた。日本にはない大きなモスクや、大きな植物の建物に圧倒された。マリーナベイサンズ内のショッピングモールでは、有名なブランドショップやモール内の様々な仕掛けに生徒達はとても驚いていた。最後にチャイナタウンを訪れ、帰る時にはお土産を手に下げている生徒も多く見られ、とても満喫したようだった。その後は空港に向かい、日を跨ぐ約7時間のフライトを経て日本に帰国した。

久しぶりに実施された海外の研修旅行。初めての海外旅行という生徒も多かったが、十分に羽を伸ばして楽しんでいる様子が見られ、良い経験になったことが見てとれた。

【土田夏帆】

現地大学生の案内でチャイナタウンを巡る生徒達

沖縄コース

全てが新しい発見や学び

伊江島の方々に歓迎される生徒達＝伊江港

12／18
富山駅→金沢→新大阪→伊丹空港→那覇空港

12／19
沖縄平和祈念公園、おきなわワールド、伊江島（民泊）

12／20
伊江島（民泊）

12／21
伊江島、美ら海水族館、アメリカンビレッジ、国際通り

12／22
首里城→那覇空港→伊丹空港→富山駅

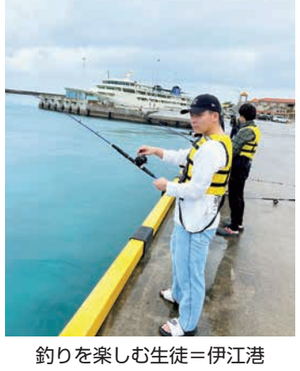
今回の沖縄研修旅行では良い刺激を受けました。2日目に行った平和祈念公園では、平和の礎という沖縄戦で亡くなられた20万人以上の名前が彫られている記念碑がありました。記念碑の大きさで犠牲になった人々を連想でき、とても胸に響きました。バスガイドさんの話では当時、空襲で地上を歩けない状態だったので、防空壕と呼ばれる空襲から避難する穴で過ごすことを余儀なくされていましたが、そこでは十分な物資がなく、子ども女性関係なく雑草やミミズ、ヤモリなど食べられるものは何でも食べていたということです。私たちは過去にあった戦争をしっかりと学び、次の世代にも戦争があったという事実を伝えていかなければいけないと思いました。

3日目は、伊江島で民泊体験を行いました。その中で私が印象に残っていることは、地域の繋がりです。民泊の方々と一緒に島の周辺を散策させてもらったところ、世帯ごとに繋がりを感じ、富山とは違った雰囲気を感じることができました。他にも、沖縄の名物である沖縄そばやアグー豚を使った料理などを食べさせていただきました。富山とは違って、出汁に鰹節などの魚介類を使用しているため、味があっさりとしていて食べやすく、かつ三枚肉（皮がついた状態の豚ばら肉）はとても甘味があり、自分好みの味でした。

4日目は、美ら海水族館とアメリカンビレッジに行きました。美ら海水族館では、初めて見る生物や標本がたくさんありました。中でも印象に残っているのは、名物の黒潮の海と呼ばれる、幅が約40メートルにもなる巨大水槽です。その中には巨大なジンベエザメもおり、悠々と泳いでいる姿はとても華麗で感動しました。アメリカンビレッジでは他国の観光客も多く訪れており、海外に来たかのような不思議な雰囲気を味わうことができました。

私はこの研修旅行を通じて、沖縄の文化について触れました。4泊5日間、全てが新しい発見や学びとなり、新鮮な時間を過ごすことができました。個人的にももう一度行きたくなるような、素晴らしい研修旅行だったと思います。

【M I】


釣りを楽しむ生徒＝伊江港

四国コース

諦めないことの大切さ学ぶ

日本最古のオリーブの原木の前で＝小豆島オリーブ園

12／18
富山駅→金沢→京都→岡山→香川　讃岐うどん手打ち体験、金刀比羅宮

12／19
小豆島（エンジェルロード、オリーブ園、マルキン醤油記念館など）

12／20
四国遍路（香川）

12／21
神戸（北野異人館、ポートタワー、中華街など）

12／22
大阪（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）→富山駅

私はこの四国研修旅行で、普段の生活では決して得られないような多くの経験や学びを得ることができました。特に印象に残っていることは二つあります。

一つ目は、香川県の中野うどん学校でのうどん作りと金刀比羅宮の拝観です。最初に、用意されたうどん生地を伸ばしたり、細く切り分けたりしました。薄く伸ばしていくことや均一な細さに切り分けていくことは難しかったですが、茹でていただくとコシがあって喉越しがよく、とても美味しかったです。また、粉の状態から生地を作る作業では、皆で曲に合わせて生地を踏みました。少し恥ずかしかったですが楽しかったです。食後には金刀比羅宮の拝観をしました。本宮までは785段の階段があり、体力のない私には無理かもしれないと思っていました。ですが、普段目にしないような景色や建造物を見ながら上ることは楽しく、辛いからやめたいと思うこともなく上ることができました。

二つ目は、四国遍路です。今回は四国遍路71番の弥谷寺から、75番の善通寺まで歩きました。道中は舗装された道以外にも階段や山道もあり、非常に長い距離を歩きました。正直、寒くて辛かったのですが、歩き切った達成感や綺麗な景色、話しながら歩いたことの楽しさは何にも代え難いと感じました。そして、やろうと思えば何でもできるということを感じさせ、諦めないで頑張ることで得られるものの大切さが学べました。

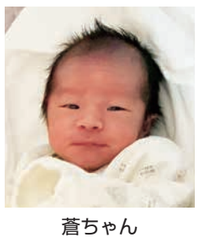
多くのことを学んだ研修旅行の中でも、この二つの体験から学んだ、何もやっていないのに勝手に諦めたり、無理だと決めつけることは無駄だということが、最も大切だと感じました。これからは、「やってないからできない」ではなく、「やってないからやってみたい」という考えを持って、いろんなことに取り組んでいきたいと思います。

そして、四国や神戸、大阪には美味しい食べ物がたくさんあることを知りました。金刀比羅宮でいただいた「おいりソフト」やオリーブ園でいただいたひしお丼、四国遍路の途中でいただいたお弁当、南京中華街の角煮まんやパンダまん、大阪のたこ焼きなど、本当に美味しいものばかりでした。とても充実した4泊5日間で、どこで過ごした思い出も忘れられないものになりました。この研修旅行で学んだことや思い出を大切に、これからの生活に役立てていきたいです。

【I M】

竹やぶの中のお遍路道を歩く生徒達＝香川県

佐藤先生ベビー誕生


蒼ちゃん

佐藤晏先生（14H担任・数学）に1月5日、第一子が誕生した。名前は蒼ちゃん。出生時の身長は49・5cm、体重3004gの元気な男の子だ。名前の由来は「空や海といった大きなものを美しく表現する蒼に惹かれ、のびのびと健康に育ってほしいという思いも込めた」。おむつ交換の時に蹴られるという佐藤先生は「家族が増えた喜びと、支えていただいた人達への感謝の気持ちでいっぱい」と話した。

編集手帳

普通に置いてかれる細川たかし　論
前髪伸びた　なんかじゃない
今年も推しが走りました。夏
模試頑張ります　狐
チョコに溺れたい　味のり
芸能人連れてきたいおにぎり
お疲れ様でした　四季
朝から菓子パン食べたい　C
筋肉痛　お茶漬け
ハローキティ　バンダイ
実はハムスター飼ってる
マヨコーン
筋肉痛つらい　みかん
英検がんばる　カフェラテ
頑張りました。ハドレー循環
朝寒すぎる　消しゴム
食べ物に囲まれたいやっぴー
がんばった　英単語
お疲れ様です　雪